

写真で見る 太陽国体

昭和47(1972)年に鹿児島県で開催された「第27回国民体育大会(太陽国体)」の様子をご紹介します



▲来鹿された当時の皇太子御夫妻



▲本町を通過する23人の炬火リレー隊



▲市体育館前を通過するパレード



▲お茶のおもてなしを受ける選手たち



▲バレーボール主会場の市体育館



▲大隅湖での漕艇(ボート)競技

特集

国体への道

いよいよ目前に迫ってきた「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」。今回は市内開催競技や地元選手の紹介を中心に、国体の魅力を伝えます。

国市国体推進室 ☎0994-31-1132



その頂へ

Special Feature

ROAD to KOKUTAI

いよいよ開催かごしま国体・かごしま大会

燃ゆる感動かごしま国体は、昭和47年の第27回国民体育大会(太陽国体)以来51年ぶりに開催されます。当初、令和2年度に実施される予定だった第75回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年度に特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会として開催することになりました。

10月7日開催の国体は都道府県ごとの対抗戦で、男女総合優勝である「天皇杯」と女子総合優勝である「皇后杯」をかけ、各都道府県の代表選手が鹿児島島の地で競う大会です。

10月28日開催の「燃ゆる感動かごしま大会」は、鹿児島県で初めて開催される全国障害者スポーツ大会。障がいのある無にかかわらず誰もがスポーツを通じて喜びや感動を分かち合い、障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目指した大会です。

かごしま国体・かごしま大会の期間中、鹿児島市での国体競技は、ローイング(全種別)、バレーボール(成年女子)、自転車(ロード・レース)が開催され、大会競技ではバレーボール(精神障害者の部)の計4競技が行われます。

今回は地元開催というまたとない

機会。観戦のポイントを押さえて、ぜひ応援に行ってみてはいかがでしょうか。市民の皆さんの参加のもと「オール鹿屋」で盛り上げていきましょう!

ローイング

ローイング競技は水上の直線コースでオールを使ってボートを漕ぎ、順位を競う競技です。スタートからゴールまで、艇がいかに速くたどり着くかを競うシンブルな競技ですが、選手は1,000mのコースを常に全身を使って全力で漕ぎ続けるため、究極の過酷さを誇る競技とも言われています。

国体では漕ぎ手の人数やオールの種類によって分けられた4種目で競い、全国からブロック予選を勝ち抜いた約900人の選手団が集結。輝北ダムに設置された特設コースで白熱したレースを繰り広げます。全国トップレベルの糸乱れぬオールさばきを会場でご覧ください。

バレーボール

(成年女子の部)

成年女子バレーボールはラリーが長く続くのが特徴で、ぎりぎりのボールを拾う、手に汗にぎるプレーの連続から目が離せません。バレーボールでサーブを打ってからスパイクを打つまでの平均時間は約7秒。男子

はこの7秒でボールがコートに落ちる確率が70%であるのに対し、女子の場合は50%となっており、数字で見ても女子のほうが男子よりも長い時間ラリーが続くことが分かります。申良平和アリーナで開催する今大会には、国内女子バレーボール最高峰のVリーグでプレーする選手の出場が予想されます。全国レベルのプレーをお楽しみください。

自転車競技

(ロード・レース)

ロード・レースは「自転車競技の華」と呼ばれます。長距離を走破できる持久力、上り坂を速いスピードで登る登坂力、コーナーリングのテクニック、そして最後の力を振り絞るゴールスプリントなど、多くの要素を必要とする過酷な競技です。

鹿屋市役所前をスタートし、肝付町、錦江町及び南大隅町を通過して

バレーボール

(精神障害者の部)

地区ブロック予選を勝ち抜いた全7チームが参加し、6人制バレーボールで各チームに女子選手1名以上が常時試合に出場するルールとなっています。試合で使用されるボールはソフトバレーボールで、2セット先取で勝敗を競います。

力強いサーブやスパイク、長いラリーが見られるなど迫力ある試合展開があり、見どころいっぱい競技となっています。